

沿線火災・大雪等での度重なる輸送障害

新年早々の有楽町沿線火災や強風・大雪等でこの間輸送障害が何度か発生しましたが、当日業務に就かれた皆さん大変ご苦労様でした。しかしながらその度に乗務員が大変な思いをさせられています。輸送障害の度になぜ乗務員が不安を感じながら乗務に就かなければならないのでしょうか。その原因ははっきりしているのではないのでしょうか。

- ① 乗務員の運用の仕方が明確でなく、不安を感じさせる現場管理者の姿勢、態度、言動に問題があります。
- ② 食事の確保がままならない。待機中あるいは乗務を終えて帰所した後の食事もできずに、そのまま再度乗務に就かされることがあります。
- ③ 急遽乗務に就かなければならない時に、行路表がない、変更記事もない、しまいには自分で運転時刻を調べて不安定な状況で乗務に就く時があります。
- ④ 休日出勤による呼び出しの状況、災害が予想される次勤務において、通勤障害を予想しての前泊の強制・強要し遅刻した場合の脅しなどは大問題であります。
- ⑤ 2泊3日、3泊4日と通勤障害で帰宅できずに会社に貢献した社員もいます。しかも、寝室も確保されずに休養不足で乗務に就いています。また、明けで帰ってその日の午後に再度勤務に就いた方もいます。
- ⑥ 積雪により車両所構内の安全通路が雪で埋まり、運転士は靴を濡らし歩くことも困難な状況でした。安全通路が雪で埋まり歩行困難な状況になることは予想できたし、外の雪の状況を見れば安全通路の雪かきは必要と考えられたはずです。なぜ、安全通路の雪かきをしないのでしょうか。それとも考えることも出来なかったのでしょうか。
- ⑦ 異常時こそ、安全側に考える対策、社員を思う気持ちが必要ではありませんか。異常時だからこそ、宿泊・食事の確保し休養を十分に取れる対策が行われて、はじめて乗務に就くことができるのではありませんか。

管理者の異常時に対する訓練・対策がされていますか！

なぜ、毎度々々異常時・災害時に列車の運用・乗務員の廻しで同じ問題が起こるのか？管理者の異常時・災害時の対策・訓練が何も行われていないというしかありません。乗務員の事故・ミスに対しては必要以上に対策と責任追及を行い、毎月過剰な位多く訓練を乗務員に行いながら、なぜ自分たちのときは責任を持って異常時・災害時の対策をしっかりと取らないのでしょうか。しかも責任を持って異常時・災害時に対応する管理者がいるのでしょうか。毎度の繰り返して「またか？」と乗務員に信頼されていません。いま自所の乗務員がどこにいて、乗務に就いているかだけでもしっかり状況を把握して欲しいと思うほど、忘れ去られた状況にありますよ。

乗務員に対しての管理者の態度・言動は、お客様と同様です！

お客様の安全は、乗務員の肩にかかっているのです！お客様＝乗務員です！